

赤井川村地域安全克雪方針策定連絡協議会 開催結果

会議名	赤井川村地域安全克雪方針策定連絡協議会 第2回
開催日時・場所	赤井川村健康支援センター 令和8年2月20日(金) 15:00~16:50
出席者	出席委員： 7名
議題	<p>1. 開会</p> <p>2. 前回の振り返り</p> <p>3. 協議・報告事項</p> <p>(1) アンケート調査結果</p> <p>(2) 視察結果報告</p> <p>(3) 赤井川村地域安全克雪方針の策定に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度時点での方針(案) ・令和8年度以降のスケジュール
会議資料	別紙のとおり
<p>会議結果</p> <p>【前回の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方針案策定を受託した日本データサービス(株)より、資料に基づき、赤井川村における事業の全体概要の振り返りとして説明。 <p>【協議・報告事項】</p> <p>(1) アンケート調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記対象にアンケートを実施。 <p style="padding-left: 2em;">支援対象者(65歳以上)・・・97名 担い手(20~64歳)・・・73名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果概要として、支援対象者においては、3割強の方が日常的な除雪に身体的な負担を感じつつも、7割以上の方が村に住み続けたいとの意識がある。 <p>また、除雪支援を受ける方の自宅周辺の準備は実施されているものの、除雪時の安全確保ができていない方は多くない。ほか、当事者が冬期に危険を感じる箇所については地図図面に整理。</p> <p>担い手では、安全性や時間的制約が支援する上での課題であると感じる一方で、簡単な除雪においては短時間であれば可能、自己都合に合わせた支援であれば可能、との回答が多い状況。</p> <p>(2) 視察結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・克雪事業の国土交通省補助採択を受けた自治体間の意見交換会に参加。 ・長野県の降雪地帯かつ類似規模の地域を視察。共助の視点に重点をおいた赤井川村における適用可能性のある事業について整理。 	

- ・高齢者の冬期における高齢者の外出機会創出と介護予防、コミュニティ形成をテーマに視察。共助構築の視点醸成に向けた施策展開に着目。

(3) 赤井川村地域安全克雪方針の策定に向けて

- ・令和8年度に、令和7年度に整理された状況から検討すべき取り組みを盛り込んだ方針案を作成、検討、検証を適宜可能なものから行う。
- ・協議会についても、2回程度の開催を予定。

P.8において村道が4ヶ所

あとは道道。道道に関しては除雪 要望を道に出している状況

今年度は排雪頻度は高くなっている。本日も要望を出してきたところ。(事務局)

→小樽や余市などと比較しても赤井川村の道路除雪は良い。

【委員意見】

- ・市街地に面した雪庇は空き家も含めて危険箇所として認識してほしい。
- ・除雪の有償ボランティアは、人が集まらなないと機能しない仕組みだと思う。人口が少ない赤井川村で、地域だけで行おうとすると限界がある。
- ・同様にボランティア確保は現実にとっても難しい。住民が担い手になれる隙間時間は日常生活において短く、人生においても労働年齢から受援者になるまでが短い。
- ・視点を変えて、屋根に登らないで済むよう、雪が落ちやすいように屋根のペンキ塗りや張り替えに助成してみることもよいのでは。
- ・最も大切なのは受援者側と思う。除雪の質がどうであれ、支援を受け止められるようになる必要がある。でなければいずれ仕組みがあっても崩壊するものと考えている。
- ・北海道の建築基準では、人の背丈まで積もっても建物は潰れないことになっている。気になる方は知らずに数十センチの積雪でも雪かきし、やらなくてもよいことでケガに繋がっている。継続した勉強・啓蒙の場や、気軽に除雪の相談ができる場所があることが重要と考える。
- ・ボランティアで発生するような、30分100円はあくまでもお気持ちの値段。除雪の質を求めるのであれば高価であっても適正な対価を払うべきもの。しかし過度な要望対応のない仕組みづくりは難しいとの所感。
- ・コンパクトシティ主流の流れのなか、コンパクトにしすぎても地域で賄えなくなる。域内資源のみならず、域外資源の力も借りられるように一考してほしい。並行して、受援者が心構えをするために勉強していくことは適当と考える。除雪における、束縛まではいかないような「きまり」などを、互いに皆で考えていくことが持続可能な支え合いに繋がる。

- ・高齢の方は、無理せず待つよう声かけしても待たずに自身で除雪作業をしてしまう。雪庇が少しでも出ていると落とす、除雪業者がいつもより遅く自宅前を除雪してしまい転倒することもあった。間に合わないときに外部資源が使えたらよい。
- ・新潟県では条例で1メートル以上の積雪で雪下ろしをしなさいと義務化している。そのため除雪アンカー、雪止め金具の設置をリフォーム助成の対象としている。屋根に登らないことがもっとも雪下ろしの事故防止策になり得るので、リフォーム支援等について克雪方針策定の中で検討してはどうか。

【事務局回答】

- ・有償ボランティア制度や補助があっても、共助で成り立つコミュニティがあればよく、そうではない孤立する高齢者等に対してはこのような仕組みがないと対応できない状況であると視察先では話されていた。
また、制度がないとお礼の品を準備することにも金銭的負担があるため、分かりのよいボランティア制度があることで反対に負担感が少ないとのこと。
- ・担い手確保の難しさは理解。しかしアンケートでは、やりたいときにできるのであればとの回答は一定数あり。朝に除雪を行うイメージがあれば、難しいと思われるのはもっともだが、好きなタイミングであれば可能との結果が出ている。
また、ボランティアだけではなく除雪業者においても、担い手が足りないというヒアリングから聞かれた。その確保についても支援を検討していかなければならない。

【事務局出席】

保健福祉課長、建設課長、保健福祉課保健福祉係